



ぶどうの枝

2018年
秋号

天が地よりも高いように…（９）

千葉キリスト教会 牧師 磯部 豊喜

埼玉県狭山市にある入間川教会在任の４年
間を経、慣れ親しんだ入間川教会を去る日がきま
した。その経緯はこうです。前年度の秋のこと、
牧師会を迎えていました。我が家には直観が優れ
ている人がいます。それは私の妻のことですが、
この牧師会へ出発する時、「お父さんの転勤はな
いよね…」という。転勤などまったく眼中にな
かった私は、「まだ４年、（来年は大きな講演会
を予定しているし）あるはずがないでしょ」と答
えました。実は「生還率０％の進行性ガンに罹患
した後、食事療法によって見事にガンが体内から
消えたとされる、星野仁彦先生（クリスチャン精
神科医）」を招待しての講演会を企画していまし
た。３００名を集めたいと考えていました。

さて、牧師会に出席しました。ところがここ
で妙な空気に包まれてしまいます。集会の合間
に、仲の良いM牧師が当時の教区長に呼ばれまし
た。彼と食事をしようと思っていたので「なぜだ
ろう？」とM牧師を待っていたのですが、数分の
話の後に、今度は私が教区長から手招きを受けま
した。「いったい何だろう？」と教区長の傍に
座ったとき、教区長から思いがけない言葉を聞く
ことになります。「磯部先生、先日牧師たちに配
布したアンケートに静岡に教会堂が建つので、牧
師の派遣を考えていると書いた。磯部先生は、こ
のアンケートの設問の後に何か書いた跡がある。
何と書いたのか」と尋ねてきました。

実はあのアンケートの内容はこうです。「静
岡に教会堂が出来るが、開拓伝道に関心はありま
すか」。私は静岡には、家内の血筋の親戚が多く
いることもあって、「関心はあります。でも今で

はありません」という
ことを書いていたので
す。でも「これは自己
アピールになるから」と、それを修正液
で消してこのアンケー
ト用紙を提出したので
した。

教区長は、「あの
アンケートに答えてく
れる人はいなかった。磯部先生にその気持ちがあ
れば静岡に行ってくれないか」と言い始めた。

「いえ、今は入間川に留まっていたいのです
が…いつかという意味ですから」と言いました
が、静岡行きを強く押されてしまいました。…と
いうことで、次年度は静岡への転任という運びに
なりました。しかし今思うに、教区長の胸中に
あった第一候補の牧師は私ではなくM牧師でし
た。M牧師は優秀な牧師で、小さな教会をずいぶ
ん大きく成長に導いたので、教区長はこの人に静
岡へ行ってもらいたかったのだと思います。二人
の話し合いの末、教区長の矛先は私に変わった。
かくして私は静岡に行くことになりました。静岡
でということが待っているかは、次号に回しま
す。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わ
が道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言
われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなた
がたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思い
よりも高い」(イザヤ書55:8,9節)



安息日礼拝を前に
講壇の前に立つ磯部牧師

「世界の黄昏」（前編）

2018年3月17日千葉キリスト教会講演会『日が暮れるまでに』（午後部）から

千葉キリスト教会 牧師 磯部 豊喜

1. 世界の黄昏

第一部（ぶどうの枝2018夏号）は「生命の黄昏」という題で、人間の命について触れさせて頂きました。人の命には必ず黄昏（たそがれ）がある。すなわち「死」という夕暮れがあるということ。ですが人にとって「死」は人生の終着駅ではないという、別の提案を聖書は語っているのです。神様は人のために「永遠の生命」を用意してくださっています。まず講演をお聞きの皆様に、聖書の言葉がそもそも信頼のおけるものなのか？本当に天の神がおられて、この神によって聖書は書かれているのか？その証拠はあるのか？というところから話を進めていきたいと考えています。

私が聖書を手にしたのは、今から40年以上も前のことでした。高校を卒業して社会人になるときに、いつしかクリスチャンになっていた母から聖書をもらいました。しかし当時の私は、聖書には全く無関心で、会社の寮の部屋に置いてあったスチール棚の一番下の左隅に飾っていました。まさにホコリ高き聖書。今考えるとひどい仕打ちを聖書にしてきたものだと思います。この聖書が自分の人生や世界観を変えるなどとは夢にも思っていませんでした。しかし後に、聖書に向き合うようになりました。そのきっかけになった内容を振り返って、午後の講演の題を「世界の黄昏」としました。

午前の講演で、私はかつて「人間とは何者なのか？」「人生の目的はあるのか？」「世界はどうなるのか？」という疑問を持っていたということをお話ししました。私が聖書を神の言葉として信頼できるようになったのは、三つ目の質問「世界はどうなるのか？」という疑問に聖

書が十分に応えていることが分かったからです。「世界はどうなるのか？」



●これは2001年9月11日に起こった同時多発テロの写真です。3000人以上の命を巻き込んだこの事件は実に衝撃的でした。この時以来、これからの世界はどうなるのだろうと、多くの人々は思ったのではないのでしょうか。

2. 近年の予言

I ペテロ 1:24～25「『人はみな草のごとく、その栄華はみな草に似ている。草は枯れ、花は散る。しかし、主の言葉は、とこしえに残る』。これが、あなたがたに宣べ伝えられたみ言葉である」。

聖書は、主の言葉です。主の言葉とは天地万物をお造りになられた神様の言葉ということです。天の神様が本当におられるというその一つの証拠、それは今まさに私どもの手元にこの分厚い書物があるということです。聖書は、今から約3550年前～1950年前に書かれました。こんなに古い記録にも関わらず、ここに書かれているように延々と聖書は生きて来てきました。その最大の理由は、この聖書の中には「希望の福音」が私共人類のために書かれているからだとい私は信じています。

3 ページに続く



「福音」とは、幸せな訪れという意味です。実に聖書の中には、「人間とは何か」「人間に生きる目的があるとすればそれは何か」「これからの世界はどうなるのか」という人生の疑問に対する回答があります。

近年、「これからの世界はどうなるのか」という疑問についていろいろな説が繰り返し登場してきましたし、今も登場して来ています。

20世紀の後半には「21世紀はあるか」などと問われ、かの有名なノストラダムスの大預言なるものが登場し、1999年7月に終末的な出来事が起こると予告しました。しかしすでに18年も歴史は続いています。

その後2010年頃でしょうか、2012年世界終末説が浮上しました。しかもそれが科学的裏づけと共に登場して来てきたのです。

当時のTVで扱われたものですが、そこには二つの予言が紹介されていました。一つは再度登場するノストラダムスの予言です。

ノストラダムスは文章だけでなく絵も書いている。その絵による予言によれば、「2012年の冬に何か起こる」と描いているとのことでした。しかもその結論として「我々には冬が来ない」と。しかし今から6年前の冬は何事もなくやって来ました。

そして今一つ騒がれていたのは、古代マヤ文明における予言です。これによると2012年12月21日に地震で世界は壊滅し終わることでした。しかし聖書は書いています。「また多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう。」(マタイ24:11)

①ここで米国航空宇宙局(NASA)からの報告を紹介しましょう。最も深刻なNASAの報告では、小惑星(いわゆる隕石)の落下の危険です。かつてアメリカアリゾナで半径50メー

トル級の小惑星が落下しました。20キロメートルは炎上、40キロは荒野と化したのです。

もし直径300メートル級の小惑星が衝突したなら。例えば東京の中心に衝突したとしたら、関東全体は壊滅する。そして実に、約10年後の2027年にそれらしい小惑星(隕石)がこの地球に向かっていているということです。2017年の5月15～19日に開催されたPDC(プラネタリー・ディフェンス・カンファレンス)での報告によれば、100～250m級の隕石が東京(関東)に落ちる確率が上がっているということです。しかも予測では2027年7月21日にそれが来ると測定されているのです。わずか9年と4か月後(2018年3月の講演会から数えて)です。どうでしょうか!

②次に火山学者の報告・予測です。地球内部にも危険があるということです。

2004年12月26日マグネチュード9.3のスマトラ沖地震と津波。・死者20万人以上。2005年3月28日。マグネチュード8.3。(スマトラ沖、地震データ) 実はスマトラ沖の地震はある災害に影響を与えるといいます。。それはある種の火山、スーパーボルケイノという火山です。もしこれが噴火したなら、膨大なマグマを瞬時に噴出します。普通火山の1000倍の力を持つと言われます。

4 ページに続く



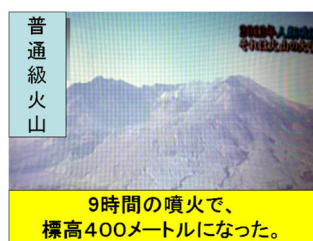
●これは普通級火山で（セントヘレンズ火



山)。1980年の米国ワシントン州セントヘレンズ火山。スーパーボルケイノ火山ではない普通級火山。9時間の噴火が

起こり、標高千メートル級の山が、標高400メートルに減少し、周辺の700平方キロメートルを飲み込んだのです。

●しかし今警告されているのは、この1000倍もの影響を及ぼす超特大火山の噴火です。



スーパーボルケイノはいつ噴火が起きてもおかしくはないのです。もしこれが爆発すると世界人口がわずか2000人にまで減少すると言

われています。

最も危険なスーパーボルケイノはイエローストーン国立公園にあります。この危険なスーパーボルケイノは日本（薩摩の硫黄島）にもあります。

火山の爆発で恐ろしいのは、ガスや微粒子によって太陽を遮断し激しい寒冷化と飢饉。気温10度の低下で、世界的な大飢饉が起こることです。疫病も蔓延します。疫病が起こった例をあげましょう。アイルランドのチフス（1817年）。江戸のコレラ（1832年）もそうです。またごく近年の疫病といえば「エボラ出血熱」です。2014年に猛威を振りました。これが怖いのは、感染致死率が50～90%だということです。私どもの地球は近い将来、何が起こるか計りがたい爆弾を地球の内外に抱えています。これが良識ある学者達の予測です。しかし残念なことに、これらの予測には、災害の予測のみで、後で述べる「希望」「救いの道」が全くな

いのです。



●これは死んだ星ですが、果たして私たちの住む地球は、この星のように消えてしまうのでしょうか。ここで神の御子イエス・キリス

トの語られた御言葉を見てみましょう。ルカ21：11「また大地震があり、あちこちに疫病やききんが起り、いろいろ恐ろしいことや天からの物すごい前兆があるであろう。」と天地の滅びる前兆を語っています。

その後どうなるのでしょうか。つぎの**3. 聖書の終末預言**を続けてお読みください。

3. 聖書の終末預言

実は、聖書の言葉は、人間の道徳的なことが書いているとか、神話みたいなありえない話が書いてあるとか思われがちです。しかし聖書ほど私たちの人生に深く関わっている書物はありません。

世界の終わりのことが書かれています。キリストのみ言葉を見ましょう。「はっきり言っておく。これらのことがみな起こるまでは、この時代は決して滅びない。天地は滅びるが、わたしの言葉（キリストの言葉）は決して滅びない。」（マタイ24：34）。

5 ページに続く



聖書は現代科学者以上に、明確な言葉で世界の終わりを宣言している書物です。しかし覚えて欲しいことがあります。それは、確かに聖書も世界の終わりを予告していますが、滅亡だけを語っているではありません。滅亡の直前に、「救いの道」も用意されているのです。

間もなくおこる人類歴史最大の出来事で、聖書では、このことをキリストの再臨と呼んでいます。イエス・キリストが、乙女マリヤを通して、この世界に来られたのが、クリスマスで初臨といひます。

そして、人類歴史の最後に再び来られるのが、キリストの再臨です。



キリスト再臨の目的は何でしょう。それは最終的な人類滅亡の兵器である、超火山スーパーボルケイノや巨大隕石から、キリストを信じる者を守り救うためです。さて、キリストの再臨後に、守り救われたキリストを信じる者達に何が待っているのでしょうか。それは愛の神様が支配なさる永遠に続く神の国です。この国は、永遠に続く聖書は予告しています。



これは聖書に書かれてある、天国の都の想像画です。聖書のみ言葉と世界歴史を合わせて調べるならば、それらがその通りであることが分かります。私は聖書に書かれた数多くの預言を調べている一人ですが、その的中率は100パーセント、すべてその通りに

なっています。ですから私が断言できる一つのはことは、2027年に隕石が関東に来るか否かは別にして、近未来には間違いなくキリストの再臨があり、永遠の天国が必ず来るということなのです。そしてその日には、死に別れた親と子、兄弟、友と友らが永遠の絆を結ぶことができるのです。（※次号に続く）

2018年3月17日（土）千葉キリスト教会講演会『日が暮れるまでに』にて講演された午前の演題「生命の黄昏」は「ぶどうの枝夏号（第11号）」に掲載いたしました。

同日の午後の演題「世界の黄昏」前編は、今回の「ぶどうの枝秋号（第12号）」に掲載させて頂きました。

「世界の黄昏」後編は「ぶどうの枝冬号（第13号）」に、掲載させて頂きます。



「守られた一日」

千葉キリスト教会 副執事長 篠田 武夫

私は現役時代、10回位単身赴任の転勤のため引っ越しをしました。その引っ越しの中で一番印象深い引っ越しとなった時の話をさせていただきます。

今から10年前の平成20年（2008年）4月1日（火）の話です。この時は北海道の釧路空港に勤務していました。ここから4月1日付けで九州の福岡空港へ転勤になる時の話です。

前日の3月31日（月）に職場で転勤辞令をもらい、午後に引っ越し荷物を宅配便（単身パック）で送り出し、車に単身パックに入りきれなかった荷物を積み込み、部屋の掃除をして鍵を返却。この日は静かで日陰以外は雪もなく引っ越し日和でした。

釧路で最後の夜をちょっと贅沢な釧路プリンスホテル（安いビジネスホテルは満室で予約できず）で過ごしました。

翌日は釧路から苫小牧のフェリー乗り場まで車で行かねばなりません。ルートは帯広を通して日勝峠経由が一番近いのですが、日勝峠は1000mを超える峠で、しかもこの時期は雪や道路の凍結など怖いので、太平洋側の海沿いを通り野塚峠（海拔500m）経由のルート（3年前に釧路にきた時のルート）で行く事にしました。

車で350 k m（約7時間）走らなければなりません。フェリーの出発時刻は夕方6時30分ですが、乗船手続きを5時まで（出発1時間30分前まで）に済ませねばなりません。余裕を見て遅くとも4時位には着きたいと思っていました。従って、翌朝9時頃ホテル出発予定でおりました。

ところがテレビで天気予報を見ていると2つの低気圧が西から北海道に接近中で、未明より大荒れになる可能性が有るとの事。一抹の不安を感じながら、今日の感謝と明日の天候の無事を祈り就寝。

翌朝、6時過ぎに目が覚め、部屋の窓から外を見ると昨日とは大違い、真っ白で何も見えない状態で吹雪いている様でした。早々に朝食を済ませ、チェックアウトの時にフロントの方が「今日は吹雪いているので車の運転は危険ですよ！」と言われ、ドキッとしました。

表に出ると雪と強風で大荒れ状態、車の周りが50cm位積もっており（周りの建物の影響で吹き溜まりになった）、ドアも開かないし、駐車場からも出られないので、ホテルから雪かき用のスコップを借りて除雪作業、気温マイナス4度。吹雪の中雪かきとは・・・。

車の周りを除雪し、エンジンスターターでエンジンを掛け暖機運転。車の走れる所まで10m位除雪（積もったばかりなので雪は軽い）。

猛吹雪の状態、それでも道路は除雪されており、車も時々走っていましたが、果たして目的地に予定時刻に着けるかどうか不安のどん底でした。

7 ページに続く



その時、職場の北海道出身の知人から「吹雪の時は運転しない、もし運転中に吹雪いてきて見通しが悪くなったらコンビニとか安全な場所に車を止めて、見通しが回復するまで待つのが安全だよ！」と聞いたことを思い出しました。

この様な猛吹雪の時に運転したことは経験無し、まさか北海道での最後の日に、猛吹雪の中を運転する事になるとは最悪・・・。

神様に道すがらの守りを祈り、8時過ぎにホテルを出発しました。すると降る雪と積もった雪が強風で舞い上がったりで15～20m位先しか見えない状態、信号機も辛うじて見える程度、ヘッドライトを上向きにして時速25km位でしか走れません。

神様にこれ以上、見通しが悪くならないよう祈りながらの手に汗握る運転でした。

この猛吹雪の中、1時間位走ったでしょうか、ようやく雪も弱くなり見通しが良くなってきました。しかし右からの北風は更に強まってきて、先を走るトラック（コンテナ車）が横倒しになるのではないかと思うほど左に傾きながら走っていました。私の車もハンドルを取られながら時速30km位でしか走れません。

白糠町の街並みに入って、ようやく雪も風も少しずつ弱くなり50km位の速度が出せるようになりました。

ホッとするのも束の間、音別町を過ぎると今度は国道（38号線）が2km位先の丘の上まで渋滞していました。下り車線は車が全然走ってきません。出発して2時間以上過ぎているのにまだ40km位しか走っていません。ノロノロ走る事40分、朝の吹雪でトラックが下り坂で滑って事故ったらしく、道路をふさぐようにどこ

かにぶつかって停止した様でした。

事故渋滞を抜けて、まだ出発して50kmしか走っていません。時刻は11時を過ぎています。3時間で50kmでは・・・、後300km走らなければなりません。

浦幌町を通過して海岸沿いの道に入る頃には、雪も風も止んできました。

そして広尾町まで行くと、また雪が降り始めました。道路は白くなっていましたが、積もる程では有りませんでした。しかしここから30km先の野塚峠（海拔500m）が通行できるのか大変不安になりました。

広尾町の3差路、真っすぐ行けば余り雪の心配がない襟裳岬（50km遠回り）、右へ曲れば野塚峠、はてどちらを選べば良いでしょう。その3差路の手前で車を停めて様子を見ることにしましたが、峠方向からは車が全然走って来ません。神様に「直進か、右折か、どちらを選ぶべきでしょうか」と祈りました。20分位すると野塚峠方向から乗用車が1台走ってきました。これは右ですねと言う事で峠に向かって走り出しました。

走り出して10km以上走りましたが、対向車は先程の車ともう一台の2台しか走って来ませんでした。（もしかすると峠手前の麓にある牧場関係の方の車かも知れない・・・）雪の降りが徐々に強くなってきました。

8 ページに続く



そしてようやく野塚峠のトンネルに到着（目的地まで丁度半分170km）、長いトンネルを抜けると浦河側は路面に雪もなく曇でした。

峠を下り浦河町に1時頃到着、これで何とか4時までには苫小牧に着けるかなとホッとしたのですが、目的地までは後130km有ります。しかし、これ以降は雪もなく快適に走れました。

そして無事に苫小牧の市内に入り、コンビニで忘れていた昼食を食べ、予定通り4時頃にフェリー乗り場に到着する事が出来、神様に感謝の祈りをしました。

午後6時30分苫小牧港出航、翌日4月2日午後2時頃に大洗港着、4時過ぎ自宅到着。2、3日自宅で過ごし、家内と車で高速道路を利用し福岡へ（自宅から福岡まで1200km）、途中山口市で一泊し、4月7日10時頃、福岡空港に到着。

この猛吹雪をもたらしたのは、二つの低気圧が北海道の上空で一つにまとまって950HPという台風並みに発達した低気圧でした。

3シーズンの北海道の冬を過ごしましたが、このような状況下での無謀な運転の経験は初めてで有り、また最後だと思えます。この日の出来事の一つ一つが神様に頼ることの大切さを学ばせて頂いたのだと思います。

この話、神の守りでなければ、単なる運の良かった笑い話で終わっていたと思います。神様に頼るすべを知っていて良かったと実感した一日でした。

最後に聖句を読みます。

聖句：

詩編 56編 4, 5節

恐れをいだくとき わたしはあなたに依り頼みます。

神の御言葉を賛美します。

神に依り頼めば恐れはありません。

肉にすぎない者が わたしに何をなしえましょう。

詩編 119編 105節

あなたの御言葉は、わたしの道の光

わたしの歩みを照らす灯(ともしび)。

2018年6月9日（土）の

「証しと賛美の集い」における

「証し」より

掲載させていただきました。



「神は愛なり」

千葉キリスト教会 西岡 清子

歌うのはまだ良いのですが、こういう所で話すのはとても苦手なのです。が「逃げてはだめだよ。勇気を持ちなさい」と言われている様なのでお受け致しました。

私はこの教会には友人と一緒に来たのですが、もう30年以上になります。

その経緯を証したことは何年も前にありますので、今日は今までの自分、私ってどういう人間かなと考えて見ましたら、思い浮かぶのはマイナスの事ばかりが出てくるのです。

パソコンでしたら（磯部先生が前に書いてらしたのですが）、ごみ箱に入れちゃいなさいと言うような事が、まだまだ思い出すと溢れ出て、私は何なのだろうと思いました。

私の母は今、ケアハウスに居ますので毎朝行って世話をしたり、週に3回ほど午後も行行って話をしたり様子を見たり、激励したりしています。凄く繋がりが強いのですが、私は「母の事大好きでしょう」と言われると返事が出来ないのです。

（今日は少しマシだったかな・・・）いろんな事が有りました。母は親の決めた結婚で、いきなり東京に出てきて周りに誰もいない状態でした。小さな家庭を持ったのですが、全く気性の違う二人、割りと短気で無口で、バロメータが上まで行くとガーっとなってちゃぶ台をひっくり返したりする父でした。それから母の方は女5人姉妹で、父親がが大人しい人だったらしく、母は言う事は凄く言うのですが、言われる事に凄く弱い、打たれ弱くて、私がいるにも拘らず、よく母は泣いていました。

それがとても幼心に辛くて。

父も母も正義は持っているから、凄くスパルタと言うか私への教育の仕方が、今だったらDVかなと思うような、お灸をするとか、裸にして外に出すとかしたらしいです。私が覚えていると言うより母が繰り返し繰り返し、それを言ったのです。「お父さん怖い人だ。怖いよね、怖いよね」と。私も良く分からないから母の方につくようになって、母を守らなければいけない立場にいた様な気がします。

また母は体が弱かったので私は幼稚園に入る前からご飯の支度、「お米の研ぎ方はこうだよ」と言われるとこうやって作ったりして、そんな状態で不幸せではないのですが、家庭の中で自分がちゃんとしていないと、父と母と私の3人が壊れちゃう様な気がしていたんだと思います。それが一つ目です。

10ページに続く



二つ目が良く転勤が有りました。小学校入学したのは東京大田区です。3年の時に仙台に転勤になって、仙台の中でまた社宅が変わって小学校3年生を同じ学校で学期毎に引っ越しました。それから中学では地元の学校へ行かずに、父と母が私を私立のミッション系の学校に入れました。卒業して大学もそこだと思っていたら、高校の時に転勤。置いて来ることは考えなかったらしく、そこでまた編入試験を受けて東京に来ました。

友達が出来ても、いつも家族と一緒に何処かに移ってしまう、いつか必ず離れる・・・友達とも深く付き合えない、小さい頃の私を知っている友達と良いも悪いも見せ合って、と言う状況ではなかったのです。ある意味一人で出来る、頑張れるとか可愛くない子だったかも知れないです。その場所が自分の場所じゃないと言う感覚が有って、可哀そうな私のその二です。

三つ目は、父と母が教育については熱心だったのかカトリック系の幼稚園に行きました。そこで初めて「神様お守りください」と言うことを覚え、見えない天使が何時も守ってくれているよと言うような話を聞きました。

中学、高校も親にそのつもりが有ったのか分かりませんが、プロテスタントメソジストだと思いますミッション系の学校だったので、そこで聖書に出会いました。

大学もプロテスタント系なので付かず離れずと言うか、芯のところがぶれずに来れたのかなというのが有ります。

そして、感謝したり複雑な思いで母との関係が有るんです。

母は極端で地方から出て来たと言う事も有るのか、とても常識的な面がうとく、

それでありながら学校の先生の子だったので、上から目線で私に教えるから、私にとって母が一番正しい人になってました。

それに気が付いてきたのは社会に出たり、学校の友達と色々な事があったり、それから特に教会に来てからですね。私は正しい事をやっていれば正しい、私はこれで良いんだみたいな、掟と言うかその下に何時もいました。

そこへ母が弱くなって、家に来た頃は、私はまだ優しかったのですが、今、人格が弱くなって、益々私に頼るようになると耐えられなくなった私がいて、そんな時に並行して教会の学びをもっと深くやりたいと言うか、そう言う機会に恵まれ、浅川さん宅の集会にも行き、先生の御言葉も聞き、教課の勉強でもザーッと読んでいる義務的なものだったのが、やっている内に身近になってきました。

11ページに続く



始めは堅くて噛めないものだったのですが、段々恵みとか色々な事を知るにつれ、このままじゃ違うんじゃないかな、もっと本当の意味の愛の人、イエス様が生きる愛の方だったように、天の神が備えて下さったように私も何かその一つになりたいなと思うようになりました。

そうすると、どうしようもないと思っていた母が、私何とか一緒にいて何かできないかと思うようになって来ました。

また夫が2度病気で倒れていますから私を頼りにする訳ですね。私は突き放したり、冗談言ったりしてやっているのですが、とても一人じゃ出来ない事を神様は助けて下さるとか、「今見て下さっているんですよ、誰も分かってないようでも見ていらっしゃるんですよ」という事で平衡を保てると言うか、凄く恵まれていることが出来ているのは、本当に教会に来ているからこそだなと感じるんです。

形だけ従順だった者が、十戒の一条一条出来ていたようだけれども、本当は出来ていなかった自分を見せられる事で、教会に来て30年も経って本当に少しずつ少しずつ変えて頂いている気がします。

それは神様が「あなたに足りないものはこう言うものなんだよ」と言う事を御存知で、色々な試練を与えて下さっている。

でもきっと最終的に私は守られて行くんだろうなと、やっと天国に行くと言う事が現実的に、本当に遅いのですが最初に信じた時に天国を御国と思えば良かったのですが、この世で神様の言う通りに生きていれば良いんだと思っていたのが、最初の計画は終わりまであるんだという事を理解し始めたら、凄く毎日が喜べるようになって来ました。

上手くまとまらないのですがこんな形で私はいますので、これからもよろしくお願いします。

聖句

「恐れるな、私はあなたと共にいる。」

(イザヤ書41章10節より)

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

(ヨハネによる福音書3章16節)

2018年6月9日(土)の
「証しと賛美の集い」における
「証し」より

掲載させていただきました。



「マラナ・タ18-ステージⅡ-講演会」に向けて

千葉キリスト教会 長老 渡邊 邦男

全日本マラナ・タ18の活動に続いて、私達はマラナ・タ18-ステージⅡ-講演会（11/4～11/15）を計画しています。

マラナ・タ18の働きは5月7日～17日に行われた千葉教会磯部豊喜牧師による10日間連続講演会によって、一つの幕が下ろされました。が、これは、第一ステージであってすべてではありません。

この春の10日間連続講演会が計画された時点ですでに第二ステージが実施されることが決定されていました。

さて、全日本マラナ・タ18の活動は私たち千葉教会に何をもたらせたのでしょうか。

もちろん74名の未信者の参加、また述べ200名近い参加者という実績を残すことが出来ました。しかし、それ以上に私たちに与えられた恵は大きなものがあつたのです。

私たち信徒が講演会に対する取り組みをするとき、私たちの心の内にはいつも一つの観念にも似た思いがよぎっていきます。

それは、「未信者の人が来てくれるだろうか」「一人も来なかったらどうしよう」「来た人が神を受け入れるだろうか」「講演会で決心をする人がいるだろうか」というような、その開催に対する結果あるいは成果に対する期待感と不安感とが入り混じった恐れにも似た思いです。

そのような思いを持ちながら「宣教に対する使命感」「神の助けへの期待感」を抱きつつ、祈りをもって自分自身を励まし、講演会の開催とその働きに臨んでいきます。

こうした思いを持ちながら、講演会という宣教活動に参加された信徒には、主は特別の恵みをもって答えて下さっているのです。

それは、11月4日から11月15日にかけて行われる10回の講演会が10名の信徒によって行われるのですが、この講演者として演台に立つ信徒は、まさに先ほどの「観念にも似た思い」ともすれば、「やりたくない」という思いを持ちながら「やります」という決心をしたことなのです。

こういう思いは、牧師である磯部先生も抱きつつ臨んでいたことと思います。

牧師には、更に牧師としての責任や自分自身のステータスなど、信徒以上に人間的な誘惑が常に付きまとっていると思います。

教会リーダーにも同じような思いや観念が付きまとうのです。一人でも求道者を増やしたい。一人でも多くのバプテスマを実現したい。一人でも多くの参加者を得たい。これらは当然のこととして、神の僕としての働きを為さんとする者には付きまとうて来るのです。

そのとき、そのような思いのなかで不安感にかられながらも「やります」という兄弟姉妹の言葉には、神の恵みが注がれているのです。

そのような恵みが多くの信徒に注がれるとき、教会は一つとなって「世の光」「地の塩」としての働きを為さんとしています。

もちろん、多くの来場者が来られることを私たちは、私たちの神である主に祈り求めます。しかし、いま私たちが神に求める祈りは、告知する人、人知れずチラシを蒔く人、未信者や求道者をお誘いする人、表に出ることなく裏方として立ち働く人、そして、これらの兄弟姉妹のために神に祈りを捧げる人、これらの愛する兄弟姉妹の上に更なる神の恵みが注がれることです。

講演会の成否は、すべて神の御心の内にあります。私たちが神の栄光が現されることを祈り求めるとき、神は私たちに応えてくださいます。私たちが自分の栄光を求めるとき神は私たちに失望をもたらすのです。

どうか、これらの衆人の目に見える働きを為す者たちの上にも、衆人の目には見えない働きを為す者たちの上にも、等しく神の恵みが注がれるように、ご加禱をお願いします。

その祈りと信仰が、宣教の働きに最も豊かな恵みと祝福をもたらすのです。

これは真実であり事実なのです。

（注）「マラナ・タ（主よ、来てください）。」

コリントの信徒への手紙16章22節より

女性部家庭会活動報告

千葉キリスト教会 女性部家庭会書記 篠田 昌子

1. 菜食料理講習会

キリスト教精神に基づく菜食料理を学びます。いつも快く協力して下さる男性方、5月にはそば打ち名人による手打ちそばを主食に副菜を作り、打ち立てそばを美味しく頂きました。近隣の方々への配食サービスも行っています。毎月第一月曜日に開催しておりますので、男性の方々も是非気軽にご参加下さい。



採食料理講習会で
そば打ちをしているところです。

2. 賛美アフタヌーン

「賛美アフタヌーン」の教会音楽祭参加は、今回で3回目となりました。私たちは、賛美の心の一致を求めて練習しています。本日の曲目「わが子」はルカによる福音書15章（放蕩息子のたとえ）に登場する2人の息子に対する、父（神）の愛を歌っています。当教会の磯部牧師が昔の賛美歌集にあった「わが子」を基に一節を弟への歌詞、二節を兄への歌詞として現代風にアレンジしたものです。私たちの賛美の心を主イエス様にお捧げ致します。（今年の9月17日千葉市民会館にての教会音楽祭プログラム紹介文より。）



昨年の「千葉県教会音楽祭」で賛美をする
賛美アフタヌーンのメンバー。

3. お菓子作り

親子で楽しめるプログラムの一つとして、子供たちが中心となってクッキーを作りました。こねたり、丸めたり、飾り付けをしたり、自由な形を作って、楽しくおしゃべりをしながら美味しく出来ました。大人も子供も楽しく交わり、午後のひととき参加できるプログラムを、これからも考えていきたいと思っています。

親子で楽しんでいる「お菓子作り」と
その作品のお菓子です。



音楽は神の賜物

千葉キリスト教会 コワイヤー 酒井 紀子

【第3回チャーチコンサート「室内楽の楽しみ」（2018年6月24日実施）】

すっかり晴れた日曜日の午後、チャーチコンサートを楽しみに多くの人々で、礼拝堂は一杯になりました。

室内楽演奏は4ステージあり、それぞれのステージごとに演奏者が曲や楽器の説明を加えて演奏して下さいました。オーボエの安藤徹さんは、オーボエ3兄弟（長男；オーボエ、次男；オーボエ・ダモーレ、三男；イングリッシュホルン）のお話と楽器への思いを熱く語ってくださり、演奏をして下さいました。チェロとバイオリンの演奏、ピアノ連弾など豊かな室内楽を心から楽しむことができました。

主な演奏曲目

愛のあいさつ（エルガー）、オーボエ・ダモーレ協奏曲（バッハ）、
家路（ドボルザーク）、花は咲く、ハンガリア舞曲5番 等

第5ステージは、ヘブンズコワイヤー30名による黒人霊歌です。黒人霊歌は、“苦しみの中にある現実”と、“いつか自由が持たされ解放されるという希望”を歌に込めて神に訴えた魂の叫びです。「弟子となしたまえ」「深い川を超えて」など全4曲のエネルギッシュの賛美でした。そして最後の曲「世界に告げよ」は会衆一同の力強い歌声となりました。

メッセージは宮崎恭一先生による「100歳人から学ぶ」で、健康で100才まで生きる知恵を教して下さいました。

コンサートの後のお茶の会は、多くの方々が残ってくださり楽しんでいただきました。仲良し二人組のお客様から「素晴らしいコンサートに毎回来ています。次も必ず来たいです。手作りケーキはいつも美味しいです。」とお褒めの言葉をいただきました。

【ヘブンズコワイヤーの今】

教会の内外から賛美歌を歌いたいという人が参加している聖歌隊です。オーディションなし、会則なし、会費なし、年齢制限なし。賛美歌の美しさと神様を賛美する喜びに感動し、ひたすら歌い続けています。森恵子さん（ヘブンズコワイヤー代表。ピアニスト。）の指導のもとで毎週土曜日の午後千葉教会で練習しています。現在は二か月に一度のチャーチコンサートとクリスマスコンサートの練習に励んでいます。遠くから近くから、若いメンバーが加わってくださり力強い限りです。見学にいらっしやいませんか。

第5回以降の予定は下記の通りです。
皆様のお越しを心よりお待ちしております。

第5回 10月28日（日）14：00開演
「菱沼あけみメゾソプラノリサイタル」
第6回 12月23日（日）14：00開演
「クリスマスコンサート」



楽しんでいただいた『サンセットバイブルカフェ「夏祭り」』

千葉キリスト教会 山本 一

去る8月4日（土）夕方6時より、千葉教会1階正面玄関前のピロティにおいて、毎年恒例の「サンセットバイブルカフェ 夏祭り」を催しました。

毎年、7月の4週目の土曜日にしていましたが、諸事情により開催が難しくなったため、6月半ばに検討した結果、1週遅らせることになりました。日程変更による参加者への影響を心配していましたが、当初の予定の7月28日の夕方には大型台風が直撃しましたので、神様のお導きを感謝いたしました。

当日は千葉教会の磯部牧師のお話をお聞



きした後、流しそうめん、ホットドック、かき氷、ラムネ、ポップコーン、焼きマシュマロをお楽しみいた

だき、終盤には恒例のビンゴで豪華(?)な景品をゲットしていただきました。

今年は、近隣の自治会の夏祭りや花火大会と日程が重なってしまったりしたせいか、例年より参加される方が少なかったようです。ですが、2週間以上前から「昨年されていたお祭りは今年もありますか？楽しかったので伺いたいです。」との問い合わせをいただいていたりと、おいでいただいたお子さん連れのご家族の奥様から帰り際に「楽しかったです。ありがとうございました。」とのお声をいただいたりできたことは感謝です。

夏祭りのような楽しい行事を通して教会においでいただき、お交わりの一時となればと思います。

流しそうめん
暑さを忘れるほど
おいしかった



ホットドッグ
トマトケチャップに
マスタード
どちらに
しようかな



暑い夏はなん
てったって
かき氷



ポップコーン
塩味が効いている
暑い夏を乗り切るぞ



外れ無しのビンゴ



最後にビンゴになり必死に景品を選ぶ人達

9月、10月、11月の行事

◇ 敬老お祝い会（礼拝ご招待日）

☆日時:9月15日(土)13:00～15:00 ☆場所:千葉キリスト教会 礼拝堂

☆幼子から高齢者の方々まで集う楽しい敬老お祝い会です。子供たちのお祝いメッセージ、敬老お祝い対象者のお話、教会賛美グループ・青年部の賛美などでお楽しみください。

皆様のお越しをお待ちしております。

◇ 秋の講演会（そのA、そのB、そのC）於：千葉キリスト教会礼拝堂

☆秋の講演会A ☆日時:9月1日(土) 10時30分～12時

☆秋の講演会B ☆日時:10月5日(金)～10月7日(日)

☆秋の講演会C①☆日時:11月4日(日)～11月8日(木)

☆秋の講演会C②☆日時:11月11日(日)～11月15日(木)

講演題など詳細が決まりました、
別途チラシ等でご案内申し上げます。

◇ チャーチコンサート〔10月28日(日)〕

☆コンサート・メイン・テーマ:菱沼あけみ メゾソプラノ・リサイタル

☆開演:午後2:00 ☆場所:千葉キリスト教会 礼拝堂

☆茶話会(場所は集会室):コンサート終了後は茶話会でお楽しみください。

☆コンサート・テーマにそった演奏や、ヘブンズコワイヤーの合唱をお楽しみください。

皆様のお越しをお待ちしております。

毎月の定期集会

◇ 菜食料理講習会

☆日時:毎月、第一月曜日に開催します。午前10時～13時

☆場所:千葉キリスト教会 集会室 ☆参加費:500円 ☆どなたでもいらして下さい。

◇ 聖書セミナー

☆日時:毎月、第二(黙示録)、第四(ダニエル書)水曜日に開催します。午前10時～11時30分

☆場所:千葉キリスト教会集会室 ☆講師:千葉キリスト教会牧師 磯部豊喜

◇ サンセット・バイブル・カフェ

☆日時:1、3、5、7、9、11月の第四土曜日の夕べ開店します。午後5時30分～7時30分

☆場所:千葉キリスト教会 集会室

☆心がほっとする聖書の話、素敵な音楽、楽しいおしゃべりなど、癒しの時間を共に過ごすことができればと願っています。軽食とお茶を用意して、皆様のお越しをお待ちしております。

安息日学校（毎週土曜日）

☆賛美礼拝:午前9:15～9:25

☆聖書の学び:午前9:25～10:40

安息日礼拝（毎週土曜日）

☆千葉キリスト教会:午前11:00～12:00

☆シャローム若葉虹の家:午前9:30～10:10

祈祷会

☆毎週、火曜日夕午後6時及び水曜日朝午前7時30分から祈祷会をしております。

【編集後記】「ぶどうの枝」2018年秋号をお届けします。9、10、11月も盛り沢山の行事を準備して皆様のお越しをお待ちしております。敬老会や講演会は別途チラシ等でご案内します。

SDA千葉キリスト教会

〒264-0028

千葉市若葉区桜木5丁目15番1号

旧法務局前通り:3、4階 千葉キリスト教会

1、2階 シャローム若葉

電話:043(231)3620

FAX:043(231)1634

Email:sda-chiba@rio.odn.ne.jp

ホームページ:

<http://www2.odn.ne.jp/sda-chiba/>

★発行責任者:

磯部豊喜 牧師

★スタッフ:

酒井 闊 吉田 敏英

綿引 秀子